



奈良町にぎわい通信

Vol.37

二〇一八・立夏〜小満

発行
奈良町
にぎわいの家





今年は「富士」をテーマに先生方の作品が。

大人気！「盆石体験」

「歌人・前登志夫の世界」
満員御礼！



エッセイの朗読も。



町家講座は
畠山梨枝氏。
(奈良町
にぎわい課)
町家の修理
修復の
補助金について。



短歌結社ヤママユの
皆さんによる歌の解説。



奈良町にぎわいの家 4月のイベントから



開館3周年
「二十四節気パネル展」



蔵展示
「歌人・前登志夫の世界」

来館者が
「ウロコ」に
メッセージを
書いて →
貼りました。
あっという
間に
いっぱい！



「みんなで作る
こいのぼり」

ちびっ子たちが
のびのびと！



奈良の写真と節気の言葉がズバリ！
じっくり読むお客様も。



絵の具の色も
子供たちが
一から
作りました。

外国のお客様を迎えて～英語ガイドの記

にぎわいの家には、世界中から様々な価値観を持った方々が来館されます。それでも皆さん一様にBeautiful!と言って下さいます。この家のどこに魅力を感じて頂けるのでしょうか。まず、格子に覆われた正面の姿からは想像できない、開放的な空間に驚かれます。奥へ奥へと続く畳に圧倒されるようです。それから襖や障子の滑るような動きに、「ワオ。」それがピタッとスキマなく閉まるとまた「ワオ！」

ある時は中国のご家族に、「この家を買いたい。いくらか？」と聞かれたこともありました。インドからの方は、「今すぐ畳を買いたい、近所の畳屋を教えて！」と、帰国間際の買い物をしようとされました。

中には、旅館に泊って来られたご家族も多く、畳の快適さをご存知の場合も多いのですが、よく畳の材料・値段・メンテナンスに関するご質問を頂きます。それに付け加えて、畳というのは日本中で大きさがほぼ決まっていて、日本家屋の寸法の基準にもなっています、とコメントすると感心してうなずかれます。

最近ちょっと嬉しいことがありました。アメリカからお見えになった年配のご夫婦、にぎわいの家の英語パンフレットを握りしめて、「ようやく、着いた！」と、やっと探し当てた様子でした。そしてご主人がおっしゃいました。「パンフレットに、家が話しているところがあるでしょ、最後のところ、『I hope to spend another hundred years with you. 次の100年を、皆さんとともに』私は泣きそうになったんだよ。」と、家が自分のプロフィールを語る部分に感動したと伝えてくれました。彼は大工さんだったそうです。離れに改修で補強された柱があります。古い材に新しい材を伝統技法で繋いだものです。彼がその柱を嬉しそうになでるのを見ながら、胸が熱くなるのを感じていました。

辻 雅子(当館スタッフ)

つし二階アート企画vol.16 「つうずれる」進行中！ え？座敷がイギリスにつながる！？



スカイプでつながった
ローラと英語で話します。



ポスト制作中。



こちらのポストに
入れてね。

現代アートを展開してきた
つし二階で、
新たなプロジェクトが！
手がけるのは、奈良市在住
アートディレクター、
中野温子氏。
イギリス在住のアーティスト、
ローラ・トンプソンさんと
ルイズ・ローランドさんとの
交流がアート作品になります。
テーマは「HOME(ホーム)」。

①ローラ⇔奈良の子どもたち

月一回、スカイプを通して交流。自分なりの「ホーム」と思う「物」や「写真」を子どもたちがローラに見せながら、イギリスの朝と奈良の夕刻がリアルにつながっています。

②ルイズ⇔誰でも！

子どもたちが作ったポストをつし二階に設置。メッセージを書いて皆さんが投函、(6/30まで)ルイズに届けます。尚、つし二階では2人の作家の紹介動画を映写中！ぜひ、見にきてくださいね。

奈良町にぎわいの家 二十四節気葉書 ～小満～



オリジナル節気短歌
喜多隆子(歌人)
節気マーク・
はがきデザイン
金田あおい(藍寧舎)



動物も人も憩う
奈良の風景。



木々の緑も木陰も濃い、
小満のころ。その緑の木陰に、

鹿の親子も人の親子も

小満の木々のかげ濃しそこに遊ぶ

事務局だより

2018
小満号

満ちる季節に

事務局長 藤野正文

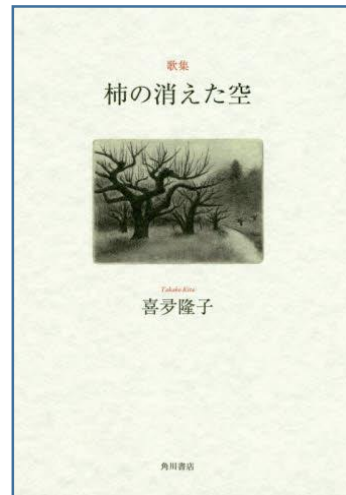
季節は、「立夏」も過ぎて、「小満（しょうまん）」に。聞きなれない、あまり馴染のない季節かもしれないが、「次第に草木も満ち足りて成長する」という意味のようで、青空のもとで少しずつ草木が育っていくさまが、感じられます。

また、奈良ではあまり見かけませんが、秋にまいた麦がひと冬を過ごして、やっと穂がつくころ。収穫はもう少しですが、ひと安心すると言う意味もあるようです。農耕が生活の糧だった頃には、農作物の収穫の有無は人の生死にかかわっていたので、育ちが順調でよかったという意味で「小満」と言う名前が付いたとも言われています。さて、奈良町にぎわいの家は開館4年目を迎えました。おかげさまでこの五月には来館者も通算30万人を超え、最近の平日は海外の方が数多く来館されるようになりました。これからも、様々なところと連携を深め、更に情報発信の充実や実施事業の充実に取り組みでいきたいと思っています。

奈良町には公共の観光・文化施設が数多く存在しています。これらの施設がお互いに連携しながら、ゆくゆくは、奈良町にお住まいの方、奈良市民、奈

当館オリジナル二十四節気短歌掲載・歌集紹介

3年前の開館より、24節気のマーク、短歌、色紙で皆様をお迎えしています。オリジナル短歌は喜多隆子先生（歌人・ヤマムユ）に依頼、毎月、この誌面でも紹介しています。喜多先生の新刊、歌集「柿の消えた空」（角川書店）に当館の24首も掲載されました。「清明」～「春分」まで、1年間、24首の歌は、時に奈良の風景や風物も読み込まれ、とてもわかりやすく季節と暮らしの実感を私たちに伝えてくれます。その歌を色紙に書いたのは、妖怪書家として人気の逢香さん。座敷の床の間に、節気ごとに歌の色紙を飾っています。ぜひ、ゆっくりご覧ください。



良町ファンの方、海外から訪れる方へ、多様な・多元的な楽しみや知の提供が出来ないかと関係者で考え始めています。



奈良町にぎわい通信vol.37

制作...奈良町にぎわいの家管理共同体
発行人...二十軒起夫
編集・構成...おの・こまち
表紙デザイン・レイアウト...福田昭一
撮影...奈良町にぎわいの家スタッフ

奈良町にぎわいの家 9:00～17:00 水曜日・休館
〒630-8333 奈良市中新屋町5 TEL 0742-20-1917
nigiwainoie@gmail.com
<http://naramachi-nigiwainoie.jp/>

書...逢香



奈良町にぎわいの家
オリジナル節気マーク



立夏
5/5～20



小満
5/21～6/5

菖蒲の根枕辺に置き眠るかな
鬼瓦重き山の夜更けを
前登志夫